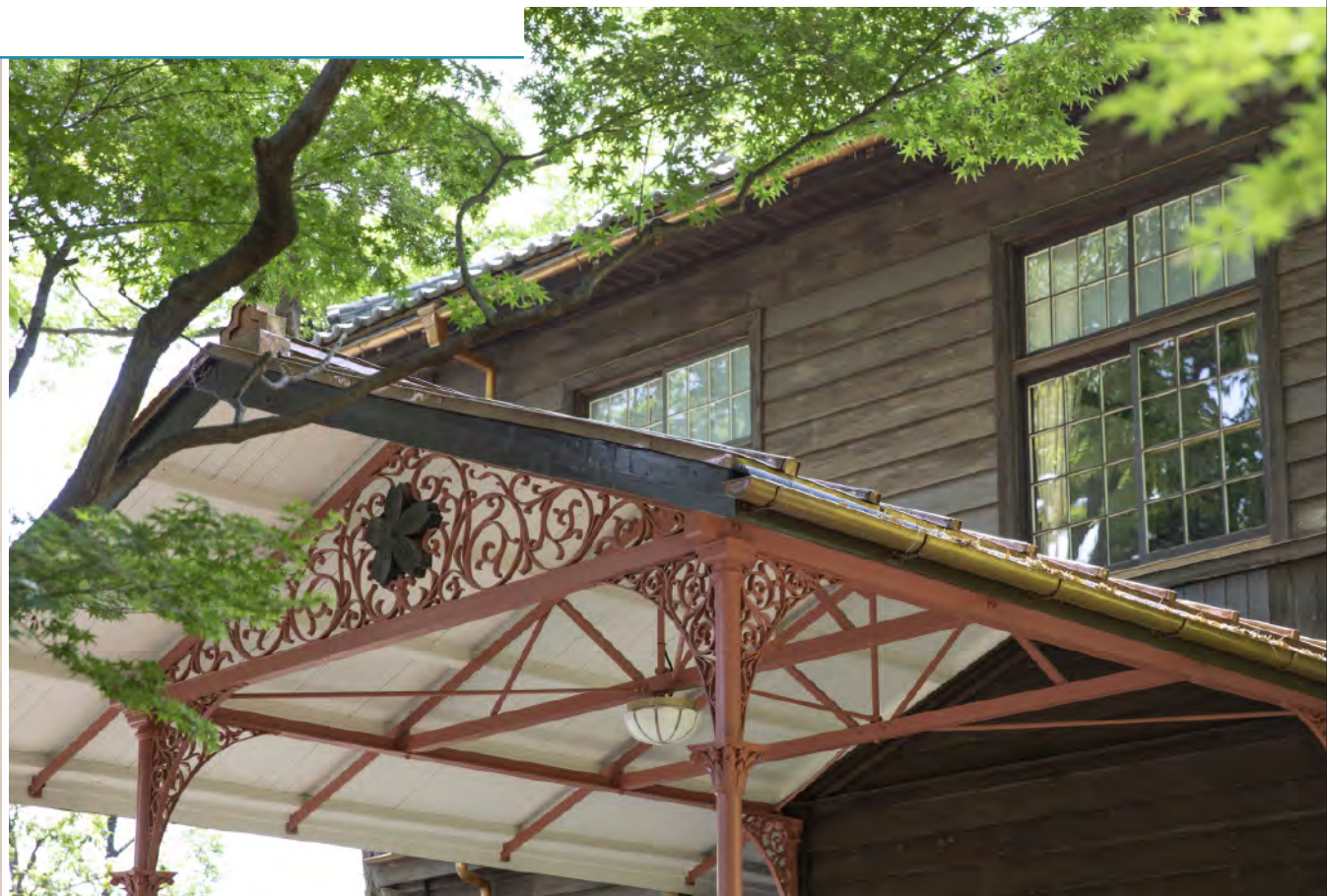


学習院大学史料館



Gakushuin University Museum of History



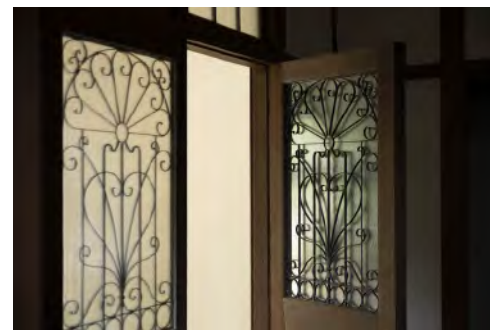
学習院の歴史と伝統を 未来へ伝える史料

約14万点を収蔵、調査研究、公開しています

学習院大学史料館は、史料の収集、調査・整理、保存と公開を行うことを目的とする大学附置研究施設として、昭和50年(1975)2月に開館しました。その後、博物館相当施設に指定され、多くの博物館実習生を受け入れています。大名、公家、村の名主家、皇族、華族、および学習院関係など14万点を超す豊富な史料を収蔵し、それを活用した展覧会や研究活動を行っています。また、学生・一般向けの公開講座を開催するなど、社会に開かれた学習の場としても機能しています。建物は、大正2年(1913)に皇族寮として建てられた木造の2階建てで、平成21年(2009)、国登録有形文化財に登録されました。

平成9年(1997)より館内には学芸員課程事務室と博物館実習室が置かれています。

The Gakushuin University Museum of History was established in 1975 as a research institute of Gakushuin University. The Museum has a collection of more than 140,000 objects – artifacts, artworks, books, historical documents and photographs. These objects are associated either with Gakushuin, or with the Japanese Imperial family, the nobility, the feudal families or village headman families in pre- and post-modern Japan. The Museum of History serves not only students and researchers; it is also a museum open to public, presenting two exhibitions every year and offering free public lectures. In 1997, the Curator Certification Course office was established in the Museum. The Museum itself is housed in a wooden two-storey building, which was originally constructed as a dormitory for the Imperial family in 1913, in the days when Gakushuin was still a boarding school. It was designated a registered tangible cultural property of Japan in 2009.



宮廷ゆかりの品々

宮家の意外な一面がしのべれます

当館には学習院の歴史に由来し、皇族・華族にかかわる史・資料が数多くあります。
高松宮家資料・山階宮家資料などの宮家に伝来した資料だけでなく、皇室からの下賜品、宮中晩餐会招待状やメニューなども、ゆかりの資料です。宮家資料は、その華やかさに目を奪われがちですが、日常を語る資料は質素であることがわかります。華族家については、阿部家史料・坂本家史料・西園寺家史料・寺内家資料・福羽家史料・三島家史料・山尾家史料など多種多様な史・資料を収蔵しています。

Pick Up

【左】
宮内大臣差出山尾庸三宛
天長節祝宴招待状

明治38年(1905)10月26日

11月3日に開催される明治天皇誕生日(天長節)祝宴への招待状。大礼服を着用する旨が記されている。



【右】
高松宮喜久子妃着用
ビーズドレス

昭和5年(1930)頃

高松宮両殿下が昭和5年(1930)～6年(1931)の渡欧の際に仕立てられたもの。ビーズにより百合花文様が施されている。



1	2
3	4

1
高松宮宣仁親王所用
旅行用象牙化粧セット
昭和時代

象牙部分に高松宮家紋が入る。携帯用化粧セットはヨーロッパにおいて18世紀頃から発達流行し、フランス語では「Nécessaire(必需品)」とよばれる。

3
菊花紋松楓蒔絵文台硯箱

大正9年(1920)

山階宮芳麿王が大正9年(1920)成年に達し、臣籍降下し山階家を創立するに際して、大正天皇から下賜されたもの。京都の近代漆芸家・戸尾光宇により制作された。

2
菊花紋吉野山蒔絵
料紙硯箱

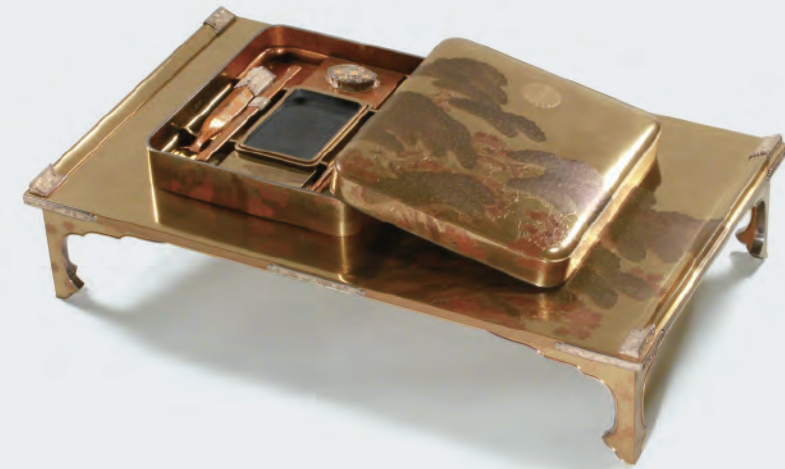
大正5年(1916)

大正天皇から寺内正毅に下賜された料紙箱と硯箱のセット。蒔絵や切金で蓋表は桜花、裏側は楓に流水があらわされ、硯箱には桜の花を象った銀製の水滴や筆などの文具が収められている。

4
高松宮宣仁親王収集
マッチラベル

昭和時代

宣仁親王は幼少時からマッチラベルや商標をスクラップしていた。成年後も各地へ訪問した際にマッチ箱を収集、保管していた。その数は3000点を超える。



ボンボニエール

いろんな形の金平糖入れです

ボンボニエールとは、皇室などの慶事の際に配られる、小さな菓子器のことです。近代国家への道を歩む明治政府は、宮中における饗宴を外交手段に用い、天皇家だけでなく、各宮家、政府高官である華族家などでも盛んに饗宴が開催されました。そのような饗宴、とくに慶事の正餐の引き出物として列席者に贈られたものが、ボンボニエールです。ボンボニエールは10cm程の大きさの精巧な工芸品で、概ね家紋が付いています。本体は銀製のものがほとんどですが、木製や陶磁器製もあります。本来菓子器であり、中には金平糖が入ります。現在の皇室でもボンボニエールを贈る慣習は続いています。

1
銀製複葉機形ボンボニエール
朝香宮孚彦王成年式
昭和7年(1932)10月
宮家共通紋。朝香宮孚彦王は皇族として初めて操縦桿を握ったといわれる。

5
銀製菊紋牛車形
ボンボニエール
大正～昭和時代
皇室ではあらかじめ作り置いたボンボニエールを贈る場合もあった。その時に用いられたもの。

2
紫壇製菊紋松鶴文螺鈿六角形ボンボニエール
東宮(昭和天皇)成婚式
大正13年(1924)5月31日
紫壇地螺鈿は、正倉院宝物にもあるように古様な加飾技法である。

6
銀製菊紋重文柄鏡箱形
ボンボニエール
貞明皇后大宮御所移転
昭和5年(1930)12月16日
柄鏡を入れる箱を模したもの。皇太后宮職において作り置かれたもの。

3
銀製置物台に
兎形ボンボニエール
東宮(昭和天皇)・久邇宮良子女王結婚
大正13年(1924)1月19日
東宮(昭和天皇)・久邇宮良子女王結婚に際し、久邇宮家で開催された祝宴の引き出物。

7
銀製桜藤文檜扇形
ボンボニエール
竹田宮恒徳王・三条光子結婚
昭和9年(1934)5月12日
竹田宮家家紋付。竹田宮は北白川宮恒久王が明治39年(1906)に新たに創設した宮家。

4
銀製入目籠形ボンボニエール
大正大礼大饗第二日目
大正4年(1915)11月17日
大正天皇の即位大礼は京都御所紫宸殿で挙行された。

8
アルミ製桐花文木瓜形
ボンボニエール
三笠宮崇仁親王・高木百合子結婚
昭和16年(1941)11月12日
珍しいアルミ製のボンボニエール。戦時下には皇室であっても、銀を使用することができなかった。

1	2	3
4	5	6
7	8	9



学習院の教育

「百聞は一見に如かず」が大切でした

戦前の学習院は、標本や模型、実物そのものを教材とする「実物教授」が重視されました。各課目には、こうした教材を保管する部屋があり、そのうち歴史地理標本室に収蔵されていた教材類が当館の教材資料の中心です。標本室は関東大震災で罹災したため、現存する教材資料は主にそれ以後に集められたものです。鳥津製作所標本部からの購入、宮内省からの移管、高松宮宣仁親王をはじめとする卒業生からの寄贈など、さまざまなルートで蒐集されました。なお、これらひとつひとつの教材の入手に関する情報は『標本原簿』という記録帳にあり、伝来がわかる点で貴重です。

Pick Up

高松宮宣仁親王所用 ランドセル

明治44年(1911)

明治18年(1885)、学習院はランドセルを通学鞆として、日本で最初に採用した。



1 朝鮮家屋模型

大正時代

関東大震災での焼失を免れた標本の一つ。朝鮮家屋におけるオンドルの仕組みがわかるようになっている。

4 唐三彩馬俑

唐時代

大正13年(1924)に江藤瀧雄という古物商より教材として購入したという記録がある。唐時代の貴族の副葬品。

2 マーシャル諸島帆船模型

昭和時代

南洋庁から高松宮家に献上された学習院に下賜された模型。マーシャル諸島で製作され、実物の1/10か1/20位のサイズ。

5 地層構造模型

大正時代

「鳥津製作所」で製作された模型。各部分には「地壘地溝」「餅盤」等、各地層の学術用語が添付されている。

3 伝応神陵古墳出土 水鳥埴輪

古墳時代

宮内省から移管された資料。東京国立博物館所蔵「応神陵(誉田御廟山古墳)出土水鳥埴輪」と類似する。

6 地球儀

昭和11年(1936)

第二次世界大戦前の国境や航空路線が示されている。

1	2	3
4	5	6



宮廷ゆかりの装束

いにしへの様式を伝えます

当館には、昭和天皇の大礼（即位礼・大嘗祭）の際に調製された東帯・衣冠などの装束類が収蔵されています。これらは当時学習院を管轄していた宮内省から保管転換されたものです。昭和大礼は、昭和3年（1928）11月10日に現在の京都御所で行われ、真新しい装束に威儀を正して参役した諸員には、自身が着用した装束が下げ渡されました。

戦中戦後の社会変動により、民間に伝わるこれらの装束類の多くが失われてきた中で、冠・袍・指貫・鞆など一具が揃って伝わる貴重な資料です。

Pick Up

標本 平安時代女房装束雛形

昭和時代

昭和期に装束研究家・高田義男が平安時代の装束を絵巻や文献資料をもとに再現したものを、教材として四分の一の大きさに仕立てた雛形。唐衣・表着・五衣・単・裳・袴からなる、いわゆる「十二単」と呼ばれる装束である。



1		
2	3	4

1 衣冠単（奏任官用夏緋袍）

昭和3年（1928）

「衣冠東帯」と呼びならわされるが、相互に別物であり、東帯とは腰部の仕立てが異なる。

3 挿頭

昭和3年（1928）

宮中行事の際、四季の花で冠を飾った古制にならい、大饗の際に作られた銀製の竹梅の造花。

2 冠

昭和3年（1928）

文官が着用した垂纒の冠。和紙の型を芯に漆を塗り重ね、薄い絹織物を貼って作られる。

4 鞆

昭和3年（1928）

東帯を着た際に用いる革製漆塗の靴。上部には華やかな蟹牡丹の大和錦をめぐらしている。



古文書の世界

教科書に載っているあの史料もあります

過去の事跡を知り、歴史を紐解く重要な鍵のひとつとして、古文書があります。当館には、多彩な古文書が収蔵されており、代表的な文書には次のようなものがあります。朝廷関係としては、中世以来続く公家の西園寺家史料、天皇の朝夕の膳や朝廷儀式のための膳を整える内膳司の家であった浜島家史料。武家関係としては、大名の陸奥国棚倉藩主阿部家史料や大名の家臣であった下館藩家老牧家史料、また幕末に活躍した幕臣川路聖謨関係史料や大鳥圭介関係史料。村関係としては、武州一揆で有名な武蔵国秩父郡上名栗村の名主町田家史料など、この他にも魅力的な古文書が多数揃っています。

Pick Up

解体新書

安永3年(1774)刊

若狭国小浜藩医杉田玄白らによって刊行された、日本初の西洋解剖学書の本格的な翻訳書。内臓諸器官の精密な解剖図が描かれた序図篇1巻と、人体内部を漢文体で解説した解説篇4巻からなる。西洋医学の扉を開き、蘭学興隆に大きな影響を与えた画期的な書物である。



1 御厩司次第

室町時代後期

平安時代後期から戦国時代中期までの院の厩を管理統括した院御厩の長官(御厩司)と実務を担当した案主(安主)歴代の名簿。

1	
2	4
3	

2 豊明節会御膳図

江戸時代

貞享4年(1687)、東山天皇の即位時に再興された大嘗会のあとに行われた豊明節会の図。

3 経営帳簿

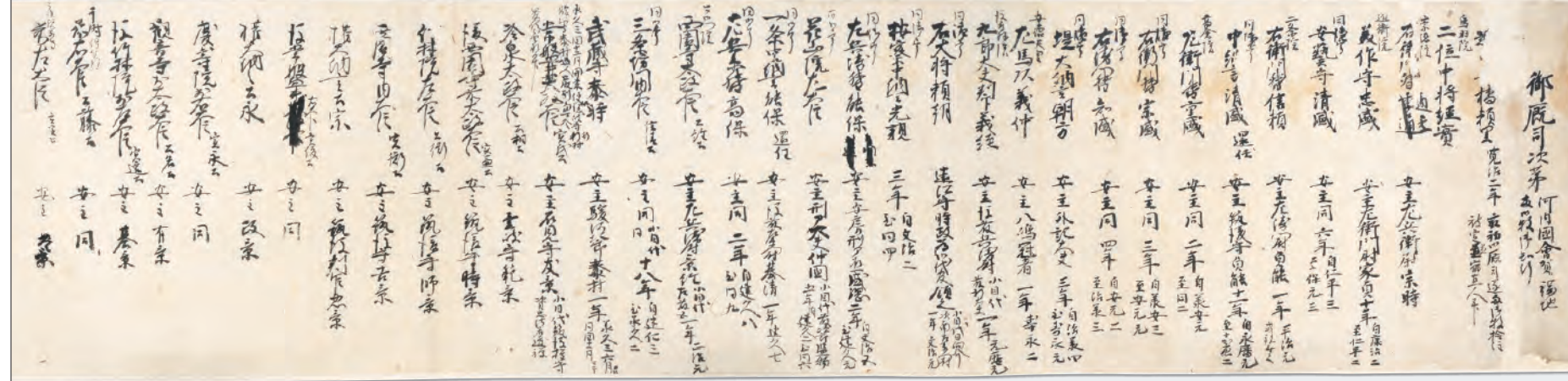
江戸時代後期

江戸の材木問屋との取引において作成された「水揚帳」・「仕切帳」などの経営帳簿である。

4 徳川家綱領知判物

寛文4年(1664)

寛文4年(1664)に4代將軍徳川家綱が発給した領知判物の本紙。宛所の「忍侍従」は二代藩主阿部忠秋。



絵画作品

学習院ならではの絵画があります

当館収蔵の絵画資料は、様々な伝来のもとに収集されていますが、なかでも松室重剛（1856～1929）関係資料が大きな割合を占めています。松室は、明治22年（1889）から大正10年（1921）までの32年間、学習院の西洋画教師でした。教え子には、武者小路実篤や志賀直哉、柳宗悦など白樺派の面々もおり、彼らの中等学科時代の絵画作品も含まれています。また松室家は江戸時代、朝廷での役職があったため、近世の書画も多く伝来しており、その中には浦上玉堂や椿椿山、小泉檀山などの作例があります。

Pick Up

百鬼夜行絵巻 江戸時代

鬼や妖怪たちがいたずらしたり夜のまちを徘徊する様をユーモラスに描いた絵巻。たいへん人気があり、近世、数多く製作された。当館所蔵本は、常陸国下館藩家老、牧家に伝来したもの。



1	2
3	4

1 永島孟齋画 「箱館大戦争之図」 明治時代初頭

学習院第3代院長、大鳥圭介関係史料のうち。馬上で奮戦する人物のひとりが旧幕臣の大鳥である。

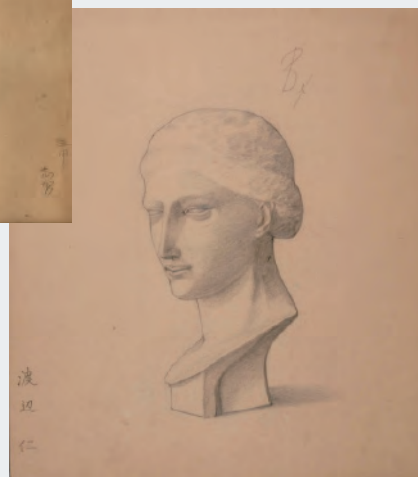
2 浦上玉堂「空山清寂図」 江戸時代後期

3 二世五姓田芳柳「春郊」 明治42年（1909）頃

本作は、裏面の記載から二世芳柳自ら明治42年5月に学習院に寄贈したものと考えられる。

4 学習院生中等学科時代 スケッチ

明治時代後半～大正時代前半松室重剛の教え子たちのスケッチ。志賀直哉（左）、渡辺仁（右）など、近代史における重要人物の作例がある。



思い出の手紙や写真

明治・大正期の光景が浮かびます

当館には旧制学習院時代の教材や絵葉書、皇族・華族家の写真など図画像資料が多く収蔵されています。旧制学習院には**幻燈室**が設置され（現学習院大学西1号館3階）、外国書籍や新聞などをガラス乾板に撮影し、幻燈機で映し出して授業を行っていました。明治期の絵葉書には、今では当たり前となった家族写真を年賀状にしたものなどもあり、現在につながる絵葉書の歴史を見ることができます。皇族・華族家の写真は、その暮らしを今に伝える貴重な資料です。

1
巖谷小波宛黒田湖山年賀状
明治44年（1911）
明治44年の年賀状。黒田湖山は巖谷小波が編集をしていた雑誌『少年世界』に参加し、多くの児童文学作品を発表した。

4
山本盛英宛
山本盛重差出葉書
明治38年（1905）
山本盛重は山本権兵衛の甥にあたる。日露戦争時は習志野騎兵第2旅団騎兵第15連隊に所属。戦地より「絵」葉書を送った。のちに学習院馬術教官を務めた。

2
西洋歴史授業
（高等学科一部第二年級）
大正4年（1915）
大正天皇の即位大礼を記念して作成された『大礼奉獻学習院写真』より。当時の学習院の様子が詳細に判明する。

5
葛城茂麿・敏子結婚式写真
昭和5年（1930）
山階宮菊麿王第5王子子麿王は昭和4年（1929）臣籍降下し葛城茂麿となった。翌5年細川護立長女敏子と結婚。仲人を近衛文麿が務めた。

3
山階宮邸宅で
兵隊ごっこに興じる
武彦王・芳麿王・安子女王
明治37年（1904）菊麿王撮影
菊麿王は当時まだ貴重だった写真機で家族などを撮影した。当館は1000枚近くの山階宮家写真を所蔵している。

6
山階宮芳麿王
明治43年（1910）
山階宮芳麿王は山階宮菊麿王第3王子。大正9年（1920）臣籍降下し、山階芳麿となる。山階鳥類研究所を創設したことで知られる。

1	4	5
2	6	7
3		

7
ホア・メオ族の女性
20世紀
歴史地理標本室収蔵ガラス乾板写真。現存するガラス乾板写真には仏領インドシナ（現ベトナム）社会主義共和国などに関するものが多く含まれる。



文学と哲学

知の巨人は、イラストの達人でした

辻邦生（大正14年（1925）～平成11年（1999））は、作家であり学習院大学フランス文学科（現フランス語圏文化学科）の教授でした。辻邦生関係資料は約4万点に及び、自筆原稿、創作ノート、日記、書簡、著書、イラスト、愛用品、終生の友・北杜夫とやりとりした書簡（70通）などコレクションは多岐にわたります。

また、三島由紀夫（大正14年（1925）～昭和45年（1970））が彼の文才を最も早く認めた学習院の先輩である坊城俊民（大正6年（1917）～平成2年（1990））に宛てた書簡（3通）もあります。西田幾多郎（明治3年（1870）～昭和20年（1945））は日本の哲学界の発展に大きく貢献した人物で、明治42年（1909）から一年間、学習院で教鞭をとっていました。約300点余りの書簡、書、写真などを収蔵しています。

Pick Up

辻邦生 国分寺の家（模型）

平成25年（2013）辻愛也作成

建築を専攻した辻邦生の弟が設計。玄関がなく窓から出入りしたと言う。昭和28年（1953）～同46年（1971）まで、この家で創作活動を続けた。



西田幾多郎夫人琴愛用懐中時計

大正時代

琴夫人が最初の留学中にアルバイトをして購入したウォルサム（Waltham）の金時計。西田幾多郎が講演などの際に愛用した。



1

✂切前（左）✂切後（右）

昭和50年代か

辻邦生はマンガやスケッチの名人。佐保子も影響を受けて、互いに描きあっては交換していた。

3

三島由紀夫自筆書簡

昭和44年（1969）～45年（1970）

坊城俊民は旧制学習院時代、輔仁会文芸部に所属。三島と交流を深めた。書簡には自決6日前に書かれたものも含まれる。

2

スパイラル綴じ小型手帳

昭和30年～40年代

愛用の創作手帳。旅先、取材先では、手帳を片手に印象やスケッチを書きとめた。

4

西田幾多郎（左）と三木清（右）

昭和時代

鎌倉にある西田幾多郎邸の縁側に座る西田幾多郎と三木清（哲学者）。本邸宅は現在学習院西田幾多郎博士記念館（寸心荘）となっている。

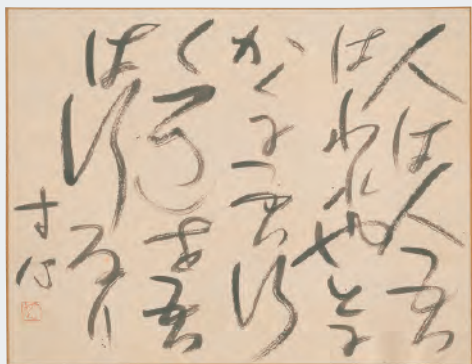
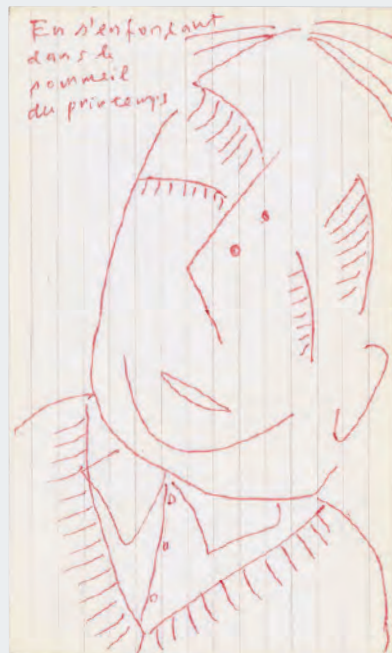
5

「人は人 吾はわれ也 とにかくに 吾行く道を 吾は行なり」

昭和9年（1934）

西田幾多郎64歳の元旦に詠んだ歌。己の道をひたすらに追い求めた強い信念が伝わる。京都哲学の道の歌碑原本。寸心は西田の居士号。

1	2	
3	4	5



図書・文庫

馬術、歌舞伎、私家版…稀少本多数!

現在蔵書数は図書、雑誌など合わせて約6万冊にのぼります。そのうち約半数を占めるのが10の文庫です。「文庫」とは、個人が収集した図書資料をまとめて譲り受け、一つの群として整理保管しているもので、収集者の関心領域を語る興味深い学術資料です。当館の「文庫」は、学習院とのゆかりが深い人物の蔵書がほとんどです。蔵書は、オンライン所蔵目録 (GLIM/OPAC) <http://glim-ir.glim.gakushuin.ac.jp/opac/> から検索可能です。

□ 粟津文庫

粟津則雄 (昭和2年(1927)～)は詩人、フランス文学者、文芸評論家。元学習院大学フランス文学科講師、法政大学名誉教授。いわき市立草野心平記念文学館名誉館長●親しく交流した小説家・辻邦生、北杜夫からの献呈本など

□ 桜鞍会文庫

桜鞍会 (昭和17年(1942)～)は学習院馬術部のOB組織。旧制学習院では馬術が正課の授業として重んじられた。●馬術関係の書籍や雑誌類。明治、大正時代の洋書、ドイツの馬術新聞や馬術競技のひとつである打毬に関する資料など。

□ 大久保文庫

大久保利謙氏 (明治33年(1900)～平成7年(1995))は元名古屋大学、立教大学教授。学習院高等科卒。日本近代史学の功労者。祖父は大久保利通。●利謙が手元に残した10代の頃の愛読書など。書きこみや付箋などが特徴。

□ 小川文庫

小川恭一氏 (大正14年(1925)～平成19年(2007))は徳川幕府制度の研究者。江戸文化・風俗の研究者三田村篤魚に師事。●歴史、美術、茶道関係の書籍のほか、篤魚が著した初版本や篤魚の蔵書印が捺された書物もある。

□ 学習院考古学文庫

史学部OBから寄贈された考古学関係資料が約300冊、歴史考古学会を設立した内藤政恒氏 (明治40年(1907)～昭和45年(1970))の古瓦や古硯に関する書籍など100冊。

□ 児玉文庫

児玉幸多氏 (明治42年(1909)～平成19年(2007))は学習院大学名誉教授、元学長。日本近世農村史、交通史の第一人者。●地方史関係図書が8千冊以上、他に抜刷類が数千冊、執筆・監修に携わった著作が3百冊近くある。

□ 永山文庫

永山武臣氏 (大正14年(1925)～平成18年(2006))は松竹株式会社元社長。学習院高等科卒。歌舞伎興行を定着させたことで知られる。●演劇関連書籍、歌舞伎筋書など。

□ 橋口文庫

橋口稔氏 (昭和5年(1930)～)は東京大学名誉教授。学習院中・高等科を通じて演劇部に所属。祖父は児童文学の礎を築いた巖谷小波。●新劇、歌舞伎などや日本の伝統芸能関連書籍のほか、台本・講演パンフレットからなる。

□ 福井文庫

福井憲彦氏 (昭和21年(1946)～)は学習院大学第11代学長。元文学部史学科教授。専門はヨーロッパ近代史、フランス史。●蒐集した都市計画や土木関係の地図など。

□ 湧井文庫

湧井社吉 (昭和15年(1940)～)は学習院大学政経学部卒業。蔵書家。湧井家は代々美術、文学や茶道など文化にも造詣が深い●茶道関係、近現代文学関連初版本など

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

1

『歌舞伎』第3年第1号

歌舞伎座内歌舞伎出版部
昭和2年(1927)1月

2

『アポロの杯』

三島由紀夫
昭和27年(1952)

3

『鳶魚劇談』

三田村玄龍 (鳶魚)
大正14年(1925)

5

『白樺』

正親町公和編
明治43年(1910)4月

7

『春(下)』 (代表的名作選集第六編)

鳥崎藤村
大正5年(1916)

9

『鍵』

谷崎潤一郎
昭和31年(1956)

11

RODEO cowboys, bulls, and broncos

Sam Savitt
1963年

4

『檀重雑筆』

小出楯重
昭和2年(1927)

6

『藝』

尾上菊五郎 (六代目)
昭和26年(1951)

8

『芝と上野浅草』

三田村玄龍 (鳶魚)
大正14年(1925)

10

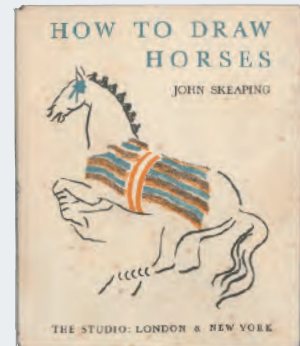
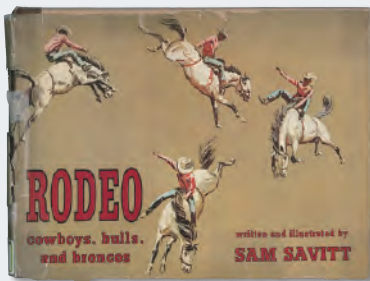
『歌舞伎眼鏡』

岡鬼太郎
昭和18年(1943)

12

HOW TO DRAW HORSES

John Skeaping
1956年



学習院の学び舎

由緒ある名建築が並びます

学習院目白キャンパスには、平成21年(2009)3月に登録された国登録有形文化財7棟(正門・厩舎・乃木館・東別館(史料館)・北別館・西一号館・南一号館)があります。また、「旧学習院昭和寮〈現日立目白クラブ〉」(東京都豊島区)、博物館明治村(愛知県犬山市)に移築された「院長官舎」や、千葉県立房総のむら内に移築された旧学習院初等科正堂(重要文化財)など、各地にゆかりの建物があります。

- | | |
|---|---|
| 1 | 4 |
| 2 | 5 |
| 3 | 6 |
| 7 | |
- 北別館(旧図書館)**
明治42年(1909)久留正道設計
中央部分には採光のための天窗が設けられ、明治時代のゆがみガラスが遺っている。
 - 史料館・東別館(旧皇族寮)**
大正2年(1913)宮内省工匠寮設計
旧制時代は全寮制であった。皇族専用寮の底は馬車が通れるように高く作られている。
 - 乃木館(旧総寮部)**
明治41年(1908)久留正道設計
寮の事務棟として建てられた。乃木院長がこの2室に住み、学生と寝食を共にした。
 - 正門**
明治41年(1908)久留正道設計
当初は門柱頭部に照明器具が設置され、門扉には華やかな装飾が施されていた。
 - 西一号館(旧中等科教場)**
昭和5年(1930)宮内省工匠寮(権藤要吉)設計
ネオ・ゴシック様式。幻燈室、英会話サロン、洋画教室などがあり、文科系授業棟として建てられた。
 - 南一号館(旧理科特別教場)**
昭和2年(1927)宮内省工匠寮設計
ネオ・ゴシック様式。ドラフト・チャンバー(排気装置)や蓄電室などが備えられていた。
 - 厩舎**
明治41年(1908)以前
四方に出入口があり、通路をはさんで両側に馬房が配される軍隊の形式を残す厩舎である。



史料館の建物について

現在、学習院大学が置かれている建物「東別館」は、大正2年(1913)竣工の皇族学生のための寄宿舎・皇族寮(別寮とも呼称)として竣工されました。建物の設計は宮内省内匠寮によります。木造2階建て、棧瓦葺で、北側は寄棟造、南側は切妻造の複合的な屋根を持ち、横長の南部分とL字型をした北側部分で構成されています。北側に位置する表玄関には、桜花の校章が印され、鑄鉄製の柱で支えられた美しい玄関庇が設けられています。これは皇族学生の馬車での登校に配慮して高く作られたものです。外装はアメリカ系の建築様式の影響がうかがえますが、内部は棹縁天井に、柱、長押、欄間が配された漆喰壁を持つ和風の意匠となっています。各部屋には欄間付きの引き違い窓が配され、採光を取り入れる工夫も見られます。

平成31年(2019)には耐震並びにバリアフリー化、登録有形文化財としての改修工事を終え、竣工当初の姿を復元しました。その後は史料館として活用され、明治期から大正期の寄宿舎建築の面影を伝えています。

発行 2019年9月
発行者 学習院大学史料館
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
TEL: 03-5992-1173
www.gakushuin.ac.jp/univ/ua/

利用案内

学習院大学史料館

学習院大学史料館は、事務室・閲覧室等のある東別館と、北2号館1階にある史料館収蔵庫と展示室の3か所に分かれています。

□ 史料館事務室

北別館建物の見学や刊行物の販売、その他お問い合わせ受付等を行っています。

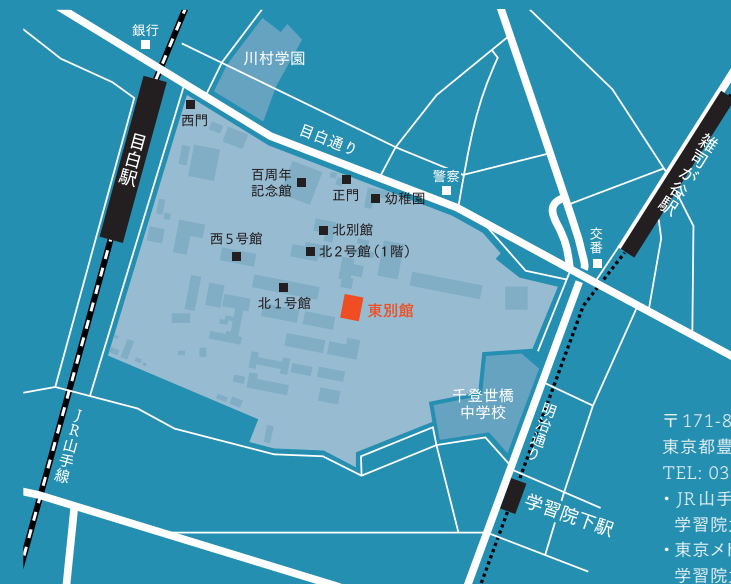
開室時間 平日 = 9:30~17:30 (11:30~12:30 閉室)
土曜 = 9:30~12:30

休館日 日曜日 / 国民の祝・休日 / 開学記念日(5月15日) / 開院記念日(10月17日) / 大学入試期間(2月頃) / その他夏期、年末年始など。

□ 史料館展示室

展示開催期間中のみ開室しています。最新の展示情報は、HPで確認できます。

www.gakushuin.ac.jp/univ/ua/



表紙右…史料館（東別館）撮影：吉次史成

表紙左／裏表紙右…豊明節会御膳図（部分）江戸時代

裏表紙左…唐三彩馬俑 唐時代



以上二度自南階下供之 米女正下柝警蹕



晴卯悟

旧膳目調進之